

じっくりと考えてみよう！子ども哲学



放課後預かりの施設で月に1回、「こども哲学」をしています。お題を出し合って、対話で深めて広げていく。何かをしなくてはいけない、ということもなく、じっくりと話し合っていく時間です。

☆哲学カフェに参加すると

何度か大人が参加する哲学カフェに参加しました。大人が参加すると、お題そのものが哲学的(?)。哲学の研究者が主催するものでは哲学的な解説があることもありました。これは、さらにお勉強になり、楽しかったです。

大人が身の周りのふとしたことに関心を持ち、対話をしながら深めていく。とても豊かな時間で、心に残るものがありました。終わった後はとても充実感があり、日常の生活の中でも、ふと考えてしまうことがあり、充実した、心も満たされる時間が過ごせます。

☆哲学、科学的？

子ども哲学でも、子ども達からお題をもらいます。「今、気になっていることは何？」と聞くと、科学的なことに関心があることが多いようです。

「虹って、本当に七色なの?」「昔むかし、地球上の大陸は一つだったって聞いたよ」「恐竜のこと教えてあげる」「中性子星って知ってる?」など科学的なことを知ってる! 教えた! 気になる! ことをテーマにすることが多いです。子どもたちが関心のあることなので、(哲学にならなくても) みんなで教えあったり調べたり、しています。

先日、大人も参加して行ったのですが、大人は「言語化ってどういうことなんだろう?」というテーマでしっかり対話できました。これはこれで、楽しい時間でした。小学生にはちょっと難しかったようですが。

☆子どもの関心って大人の想像を超えています!

大人になると関心を持たなくなってしまうことに子どもは興味を持つことが、たくさんありました。子どもの数×たくさん=∞です。想像を超える数です。そして、教えてあげたい! という子どもたちは、こちらも、知らないことをたくさん、そして深く教えてくれます。この子どもたちの関心ごとやこの場で知ったことが少しでも心に残っていくようになると、子ども達にも豊かな生活を送るきっかけができるのでは? と思っています。

*哲学カフェというよりも、関心のあることをみんなで話し合うというイメージが近いです。子どもたちは、始めは興味がなくても、PCで調べたり絵を描いたりするうちに、どんどん楽しそうに、前向きに参加してきてくれるようになります。これも、対話の力なのかもしれません。

